

中期プログラム：「哲学としての現代中国」

概要

このプログラムでは、現代中国を哲学のトポスとして取り上げ、それを三つの側面から論じる。

第一に、ここ十数年の間に大きく広がってきた「儒教復興」という現象を、宗教と哲学の関係から考える。そのためには、現地での調査に加え、「儒教復興」の言説分析を行う。

第二に、一九八〇年代から現在に至るまで、中国の思想界において如何なる哲学的ディスコースが登場してきたのかを考える。それは、いわゆる現代西洋哲学の輸入による「文化熱」から始まり、現在の「カール・シュミット熱」に至るまでの言説分析になる。

一見するとまったく対照的な以上の二つは、一見するとまったく対照的な哲学言説に見えるが、それらは根底においては共通している。どちらも、「中国における古典回帰 Classical Turn in China」という同じ運動に属しているからだ。

したがって、第三に、古典回帰という側面から、哲学としての現代中国を論じる必要がある。その際、日本、ヨーロッパ、米国等々のコンテクストで生じている、哲学における古典回帰との比較が重要になる。

スケジュール（予定）

2007年度 冬学期	9月 10月～3月 11月（3月） 1月（3月）	○現地調査（北京、曲阜） ●講義：共生のための国際哲学基礎論Ⅳに相当 「哲学としての現代中国」（中島隆博／於東京大学） ●ワークショップ：共生のための国際哲学演習Ⅵに相当 （PD・RAによる発表／於NYU） ●シンポジウム＋演習：共生のための国際哲学演習Ⅷに相当 ○シンポジウム「儒教復興と哲学の中国」（於東京大学） ○演習：（中島隆博／於東京大学）
2008年度 夏学期	4月～9月 6月（7月）	●演習：共生のための国際哲学演習Ⅲ「Classical Turn in China」 ●演習：共生のための国際哲学特別研究Ⅲ「儒学表象のアクチュアリティⅠ」 （中島隆博＋Joël Thoraval／於東京大学）
2008年度 冬学期	10月～3月 10月～3月 3月 （一週間集中）	●講義：共生のための国際哲学基礎論Ⅵ「哲学としての現代中国」 （中島隆博／於東京大学） ●演習：共生のための国際哲学演習Ⅵ「儒学表象のアクチュアリティⅡ」 ●演習：共生のための国際哲学特別研究Ⅳ「書院運動と哲学」 （中島隆博，王常守／於北京大学）
2009年度 夏学期	4月～9月 6月（7月） （一週間集中）	●講義：共生のための国際哲学基礎論Ⅰ「中国、哲学、モダニズム」 （中島隆博／於東京大学） ●ワークショップ＋演習：共生のための国際哲学演習Ⅲ「中国哲学から見た東アジアのモダニティ」（中島隆博＋Zhang Xudong／於NYU）（PD・RAによる発表）
2009年度 冬学期	9月 （一週間集中） 3月 （一週間集中）	●ワークショップ＋演習：共生のための国際哲学演習Ⅳ「哲学としての現代中国」（中島隆博＋Joël Thoraval＋Anne Cheng-Wang／於EHESS）（PD・RAによる発表） ●シンポジウム＋講義：共生のための国際哲学特別研究Ⅳ「哲学の開く中国というトポス」（於東京大学）→2010年度に出版